

1 針刺し事故ゼロをめざして

諏訪赤十字病院 血液浄化センター

吉岡雄一 五十嵐美都子 立花直樹 笠原寛 小口寿夫

I はじめに

透析治療は特殊な環境にあり、血液飛沫や針刺し事故の発生につながりやすいと考えます。諏訪赤十字血液浄化センター(以下当センター)では、平成19年4月1日～平成20年12月31日で5件の針刺し事故が発生した。針刺し事故は、医療従事者への二次感染を引き起こす可能性も示唆される為、労働災害を防ぐ意味でも根本的な安全対策が必要となってくる。そこで、当センターで針刺し事故防止の為、検討し取り組んだことを報告する。

過去の針刺し事故の事例から当センターでは、

1. 穿刺針をセーフティー針に全面移行した。
2. 針捨てボックスの改善を行なった。

今回は2. 針捨てボックスの改善の報告をする。

針捨てボックスとは穿刺後の針など患者さんの血液の付着した針を捨てるボックスのことをいう。

II 経過

改善前の針捨てボックスについて説明する。ビューラックス使用後の容器を代用していた。穿刺カートに容器を1つ設置してあり、穿刺のときは患者さんのベッド脇の床に置いて使用する。容量は5ℓである。(写真1)



(写真1) 改善前の針捨てボックス

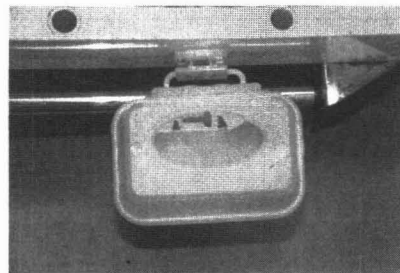
吉岡 雄一 諏訪赤十字病院血液浄化センター〒392-8150

諏訪市湖岸通り 5-11-50 TEL 0266-52-6111

(問題点)

- 1 針捨てボックスに蓋がなく、針の飛び出しの危険がある。
- 2 不安定で転倒しやすい。
- 3 移動が不便である。
- 4 容量が少ないため、頻回に交換が必要となる。
- 5 針捨てボックスから穿刺針が突き抜ける。

1回目に改善した針捨てボックスについて説明する。病院指定の針捨てボックスの容器に切り替えた。各ベッドに1つずつマグネットで設置し、容量は3リットルである。(写真2)



(写真2) 1回目に改善した針捨てボックス

- 1 蓋がなく、針の飛び出しの危険がある。
 - 3 移動が不便である。
 - 5 穿刺針が突き抜ける。
- については改善をみましたがマグネットで固定のため不安定で転倒しやすい。ことまた、
- 4 容量が少ないため、頻回に交換が必要となる。
- という課題が残ったままであった。

2回目に改善した針捨てボックスは穿刺カートに1つの針捨てボックスを設置し、穿刺のときは穿刺カートと共に患者さんのベッドサイドに移動

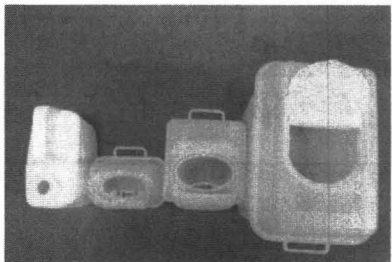
する。容量は7リットルである。

前回の針捨てボックスより容量が大きくなり4の容量が少ないために頻回の交換が必要であるについては改善へ向かった。しかし、不安定で転倒しやすいことは課題が残ったままであった。(写真3)



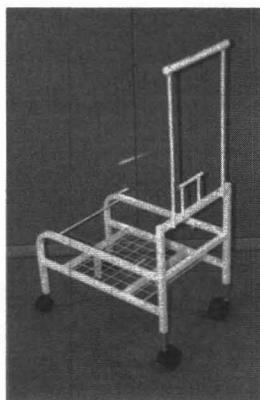
(写真3) 2回目に改善した針捨てボックス

現在の改善した針捨てボックスへとつながった。3回目の改善した針捨てボックスについて説明する。容量は21ℓであり以前のものよりかなり大きくなっている。針が捨てやすい広口になっており、針の容量が一目瞭然である。(写真4)



(写真4) 針捨てボックスを上から撮影したもの

針捨てボックスが乗るカートの作成を行った。キャスターが付いているため移動が容易であり、安定しており転倒する危険性がないものを作成した。(写真5)



(写真5) 針捨てボックスを乗せるカート

III 結果

穿刺針の全面セーフティ針への移行と改善した新しい針捨てボックスの使用後、平成21年1月～8月針刺し事故はゼロであった。しかし、平成21年1月から使用して9月に1件の針刺し事故が発生してしまった。それは、現在の針捨てボックスの針入れ口に手を入れしまい、セーフティになっていなかった穿刺針で起こった針刺し事故であった。その後すぐにスタッフ全員に正しいセーフティ針と針捨てボックスの使い方の徹底をはかった。

IV 考察

私たちはセーフティ針の全面移行とこれまで述べたように改善した針捨てボックスによって、限りなく針刺し事故はゼロに近いと思った。しかし、平成21年9月の針刺し事故が起きてしまった。セーフティ針、改善した針捨てボックスも正しく使用することが、針刺し事故ゼロに向けて重要であることを再認識した。

今後も針刺し事故ゼロを含め、より安全、安心な職場を目指していきたいと思っております。